

一般質問

岡 本 俊

(市民連合)

オーガニックアカデミー ―総括と今後の方向性



オーガニックアカデミー

問 オーガニックアカデミー事業は、平成19年8月より開始され農業技術者の育成、食農教育農産加工、農村と都市の交流の場などを目指し、1億6千万円の投資計画だったが、当初掲げた目標には遠い状況の中で、市長は総合的に判断し、24年度からの契約更新は困難とした。5年間の総括と今後の方向性は。

答 農業実践の拠点として、長期短期的研修・地元農業者や小

中学校での有機栽培研修、土壌分析など行い、有機栽培経営組織を立ち上げ、将来の地域農業振興に結びついていくと考える。

しかし、交流人口の拡大や体制整備が図られなかったことは残念な結果となり誠に遺憾である。今後、地域と協議を進め東山地域振興発展に向け努力する。

孤立死防止対策は

問 全国的に孤立死が大きな波紋を呼んでいる。市は助け合いマップを作成するなど対策を行っているが、地域から知的障がい者、高齢者が孤立しない課題と体制強化策について伺う。

答 地域社会における人と人との希薄化に伴い、孤立・孤独化の傾向と地域コミュニティ意識の低下などが根底にあると認識している。今後の対応は、家族及び親族との安否確認が第一と考え、正確な情報収集に当たり、防止策として気軽に相談できる支援体制の充実、市関係部局間や社会福祉協議会、民生委員児童委員など福祉医療機関との情報を共有し連携を図り、地域コミュニティ意識の高揚に努める。

萩原 弘之

(民主クラブ)

ふらのワインの未来は

問 ふらのワインの方向性は。

答 本市は地産ぶどうを原料に醸造、販売までを一貫して行う自治体ワインとして事業の実施をしている。生産者の努力や醸造技術の改善により、国産ワインコンクールにおいて毎年のように入賞し、品質についても高い評価を受けている。今後も地元原料にこだわり、安全で安心な商品を販売し、美味しくて高品質なワインづくりをしていく。そのため、良質なぶどう原料確保のために本年から重点栽培拡大期間と位置づけ苗木の無料配布・圃場資材の助成事業・買入価格の検討など実施したい。

問 ぶどう生産農家の継承は。

答 現在、栽培農家は29戸、面積は31haであり、栽培農家も高齢化が進み、栽培圃場も老木化しているため、収量の安定化が図れない現状にある。そのため、担い手確保という観点から生産

に取り組める環境づくりをすることや、ぶどう栽培を志す就農者の直営農場での研修受け入れも可能であり、生産者の確保、継承を図っていく。



ブドウツルの棚上げ作業風景

住民助け合いマップの活用は

問 住民助け合いマップの活用をどのように考えているのか。

答 現在助け合いマップの進捗状況は全50地区のうち46地区まで作成済みであり、残りは随時取り組んでいる。今後の活用方法については、個人情報情報の取り扱いに十分配慮しながら、日常生活における見守り活動に活用するほか、災害時の安否確認や避難支援などに迅速に対応できるように活用したい。